



# 同朋新聞

どうぼうしんぶん

Dōbō Shimbun

5

Vol. 786 May 2023

Shinran  
500th

南無阿弥陀仏  
人と生まれたことの意味をたずねていこう

3月25日からはじまった宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要。  
全国各地から真宗本廟にたくさんのご門徒が集い、お念仏の声が両堂に響きわたりました。

## CONTENTS

2・3面

人間といういのちの相

出会いからはじまる物語  
湯本 香樹実さん



写真:中道 智大

6・7面

特集

宗祖親鸞聖人  
御誕生八百五十年・  
立教開宗八百年慶讃法要



阿弥陀堂

御影堂

10・11面

宗教とは 信仰とは

カルト問題  
を通して考えよう

第3回  
(全3回)



4面

現在を生きる

御同朋・御同行からの問いかけ  
〜是旃陀羅の課題〜 第18回

5面

親鸞聖人にであう  
第10回

8面

慶讃NEWS



慶讃特設サイト

検索

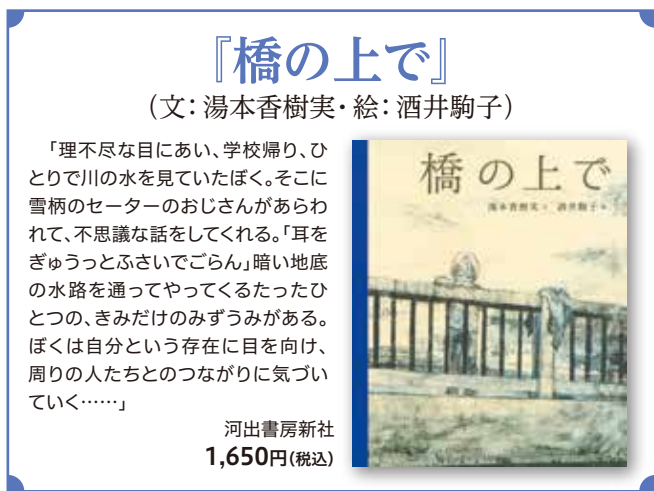
発行所  
真宗大谷派宗務所  
代表者 木越 渉  
編集/東本願寺出版(真宗大谷派宗務所出版部)  
〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る  
TEL.075-371-9189(東本願寺出版)

購読料 無料  
送料 1部 1カ年1,300円(部数により変動)  
振替口座番号 01000-6-27404  
加入者名 東本願寺出版部

連載

# 人間といういのちの相すがた

「橋の上で」の中で「おじさん」が語り、「ぼく」が見つめる「みずうみ」とは、どういふものなのでしょうが、自分の心の中にある、誰にも侵されることがない自分だけの心の風景だと思つて書きました。私自身の実感として、そこは自分の心の中であつても自分の生々しい感情とは少し距離があつて、客観的に自分を見つめる余裕をもたらししてくれる場所。そういう場所が心の中に存在したから今まで生きてこられたと、私自身実感しているんです。ある一時期の私にとってのそれは、水が流れこんでくるみずうみのイメージでした。ですので、それを作



## 自分だけの心の風景

「橋の上で」の中で「おじさん」が語り、「ぼく」が見つめる「みずうみ」とは、どういふものなのでしょうが、自分の心の中にある、誰にも侵されることがない自分だけの心の風景だと思つて書きました。私自身の実感として、そこは自分の心の中であつても自分の生々しい感情とは少し距離があつて、客観的に自分を見つめる余裕をもたらししてくれる場所。そういう場所が心の中に存在したから今まで生きてこられたと、私自身実感しているんです。ある一時期の私にとってのそれは、水が流れこんでくるみずうみのイメージでした。ですので、それを作

品の中に描いたんです。水は、人間の体にとって絶対に必要なもの。でも、人のいのちを瞬間にして奪つてしまつ、恐ろしいものになることもある。水ほどさまざまな姿を見せるものはないでしょう。人間は、他者や物事に対して、いま目に見えている姿だけではない別な面があるかもしれない、と想像したり思ひやるのができますよね。多様な姿をもつ水のある環境に生きてきたからこそ、人間は想像力を持つことができたのではないかと……そう思っているんです。

「ぼく」に声をかけてくれた「おじさん」は、上からものを教えるのではなく、「ぼく」と同じ地平に立つ者として、自分だけの心の風景がきみの中にもあるんだよということ伝える存在です。書いていてはほん苦しめたのは、「おじさん」の台詞部分でした。どうしたら「ぼく」が耳を傾けてくれるのか？ これは私自身が日々、なかなか難しいと感じているところですが……でもじつは子どもの頃、私にもこういう出来事があったのです。その方がおつしやつた一言を今でも時々思い出しますが、そのたびにその時の自分の心持ちをありありと思ひ出しますね。

悲しみというものに出会った時、その表現の仕方は人それぞれであると同時に、その人の中でもさまざまな流れがあり、いろんな形をとると思うのです。悲しみに対する怒りがある時もある。人にたくさん話してぶつけたい時もある。あるいはただその悲しみの中に、心を閉ざしているしかない時もあるでしょう。また、自分が悲しんでいる時に、客観的に自分が今、どんな状態にあるのかを考える余裕はあまりないかもしれない。でも、そんな状態にあつても、心の底では自分の置かれた状況や起こった出来事について、あがきながら解きほぐそうとしていくものではないでしょうか。悲しみの形は一つではなく、その人ともに移り変わりながら、さまざまな姿を見せるものだと思うんです。

だから、もし、そばに悲しい出来事があった人がいて、その人がわりと元氣そうに見えたとしても「大丈夫だ」と、ある時の一つの表情だけを見て判断してしまわずに、慎重に、しずかに見守ろう

「湯本さんの経験が物語の中に散りばめられているんですね。私の子どもの頃、悩んで思ひつめた気持ちになつたつらさ。それは大人になつてからも変わらずにあるのですが、子どもの頃とは質が違うように感じます。

悩みや悲しみを受けとめたり考えたりする心の力は、子どもも大人と変わりなくあるんです。でも子どもは悩みを言葉で解きほぐしていく言葉が少なく、一歩一歩踏み超えていくには言葉が役に立つ。大人と子どもの違いはそんなところにあるのではないのでしょうか。

子どもの頃、どう名づけたらいいかわからない感情が自分の中に生まれると、手当たり次第に本を読んでいた。物語に心を預け、時には現実のつらさから距離を置いたり、時には自分に似た人がいることを見つけて驚いたり安堵したり。もやもやと形にならない悩みが、じつはこういうことなのかもしれない、と言葉を使つて考え進んでいく、それだけで気持ちがいくらか楽になることも、読むことが教えてくれました。

本や人が発するすべての言葉には、発した人の心が宿っています。そして自分自身の心も、人から与えられた言葉でできている。つらさを抱えた時、立ちど

まて、ゆっくり深呼吸して自分の心を表す言葉を探してほしい。悩みを消してしまうことはできないけれど、言葉にすることを通して、悩みや悲しみを、誰のものでもない自分のものとして受けとめていけるのではないのでしょうか。大人が子どもの悩みを聞く時には、先回りして言葉にするのではなく、言葉にする手助けをしたいですね。難しいけれど、心がけています。

「くまとやまねこ」『橋の上で』では、人や言葉との出会いによって生かされていく物語のはじまりを感じました。

そう言っていたら、と、うれいのです。すれ違つていたかもしれない者どうしが会うことで何かはじまる、それが私の書きたい物語なんです。これは他のところでも書いたりお話ししたりしていることですが、私が七歳の時に祖父が亡くなり、一時期、祖父の死が頭から離れなくなつたことがあります。祖父との最後の会話や、祖父は今どこにいるんだらうということばかり考えている状態がわりと長く続いたんですが、でもそのことがあったから、自分に他の人からは見えない内側の世界があることに気づいたとも言えるんです。そして自分にあるということはみんなにもあるのか？ と強く驚いたことは死ぬまで忘れないでしょう。そのとき、ものすごくワクワクしたんです。私にとって、他者との出会いはそのときはじまつたのだと思っています。

「くまとやまねこ」『橋の上で』で、人や言葉との出会いによって生かされていく物語のはじまりを感じました。

そう言っていたら、と、うれいのです。すれ違つていたかもしれない者どうしが会うことで何かはじまる、それが私の書きたい物語なんです。これは他のところでも書いたりお話ししたりしていることですが、私が七歳の時に祖父が亡くなり、一時期、祖父の死が頭から離れなくなつたことがあります。祖父との最後の会話や、祖父は今どこにいるんだらうということばかり考えている状態がわりと長く続いたんですが、でもそのことがあったから、自分に他の人からは見えない内側の世界があることに気づいたとも言えるんです。そして自分にあるということはみんなにもあるのか？ と強く驚いたことは死ぬまで忘れないでしょう。そのとき、ものすごくワクワクしたんです。私にとって、他者との出会いはそのときはじまつたのだと思っています。

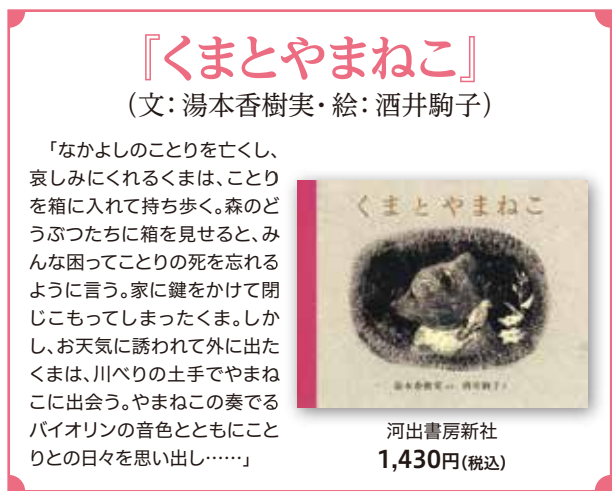
分の箱からバイオリンを取り出し、くまとこりのために音楽を奏でます。くまがその音色を聞きながら、こりとの思い出を振り返ることができたのは、やまねこに自分の悲しみを受けとめてもらえたから。その経験を経て、こりを土に埋めることができた。その後、くまはやまねこにもかつて友だちがいたこと、その友だちが今はいないことに思ひを至らせます。悲しみを受けとめてもらえたことが、やまねこの心の中にある悲しみを察する力につながっていくのです。

身近な人が亡くなった時、この世でのその人との別れを経験し、そのことをまづ自分の中で受けとめる。そして見つけるのは、その人がいないという現実を生きていく、新たな自分です。その自分を見つめるために必要なのは、やはり亡くなった方も含めた他者との関係性でしょう。くまが外に出てやまねこに会えたのは、くまが一歩外に踏み出したから。でもそれをさせてくれたのは、やはりこりと過ごした時間があつたからなのです。

「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」

## 大切な何かを失つて……

「くまとやまねこ」で、こりが死んだ翌日、くまはこりとの会話で「ぼくはきのうの朝より、あしたの朝より、きょうの朝がいちばんすきさ」とこりが言ったことを思ひ出し、また「きょうの朝」ということにとどのよう思ひをこめられたのでしょうか。通り過ぎてから気づく、その時の貴重



さでしようか。別れの後に、別れた者と共に過ごした時間が、どれほど大切なものだったかを痛切に知る。そんな経験を誰かが一生に一度は経験すると思います。でも、今この時はもう二度とない、取り戻せない瞬間であるということ、いつも忘れずに生きていたいと思つてはいても、現実にはなかなかそういかないことも多いですよ。過去にこだわつたり、「この先どうなるんだらう」と心配してしまつたり、必ずしも今考えるべきではないことに心をとらわれて今をおろそかにしてしまつ。これではいけないと思つ一方で、今の時を十全に生きると言つてもつねに「今」を意識しながら生きるなんて不可能です。結局、振り返つたり思ひを馳せたりして確認しながら、一歩一歩積み重ねていくしかないんだと考えています。

「くまとやまねこ」『橋の上で』で、人や言葉との出会いによって生かされていく物語のはじまりを感じました。

「くまとやまねこ」『橋の上で』で、人や言葉との出会いによって生かされていく物語のはじまりを感じました。

「くまとやまねこ」『橋の上で』で、人や言葉との出会いによって生かされていく物語のはじまりを感じました。

「くまとやまねこ」『橋の上で』で、人や言葉との出会いによって生かされていく物語のはじまりを感じました。

# 出会いから始まる物語



1959年東京都生まれ。作家。著書に、小説『夏の庭』『The Friends』、『岸辺の旅』、絵本『くまとやまねこ』(絵:酒井駒子)『あなたがおとなになったとき』(絵:はたこうろう)『橋の上で』(絵:酒井駒子)など。絵本の翻訳も手がける。

この紙面では、さまざまな人を通して、現代社会の抱える課題や人間そのものについて考え、宗祖御遠忌テーマ「今、いのちがあなたを生きている」、慶讃テーマ「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」の学びを深めていきたいと思います。

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入 Tel.075-343-0458 Fax.075-371-0458

**法蔵館** <http://www.hozokan.co.jp> info@hozokan.co.jp 新刊メール配信中! お買上16,500円(税込)以上送料無料 表示価格はすべて税込

**信仰が、マインド・コントロールか** カルト論の権威 櫻井義孝 90年代以降のメディアの言説や裁判記録などの分析を通じて、カルト問題を社会問題として考えたい。『心の基礎的理論』を提示する。 二二〇〇円

**歎異抄** 心に刺さるメッセージ 田代俊孝 『歎異抄』師範を中心に、語註と現代語訳を付し、感性豊かな理解で心に刺さる。『何故読んでみるべきか』を、感動を呼ぶ歎異抄の魅力。 二二〇〇円

**近代仏教スタディーズ** 増補改訂 仏教からみてもうひとつの近代 大谷栄一・吉永進・近藤俊太郎 入門書、待望のアップデート! 新版! 豊富な写真と人脈相関図を駆使し、近代仏教の歴史と魅力をイキイキと描く。 二二〇〇円

**親鸞・初期真宗門流の研究** 同朋大学仏教文化研究所 親鸞の教えを受け継ぐ初期真宗門流の東北から四国における地域の展開、その歴史について本尊聖教等、多様な史料から総合的に研究。 八八〇〇円

**親鸞 左訓・字訓・語訓辞典** 4刷 親鸞聖人の言葉による真宗聖人の著書の中で、親鸞聖人の用語の語源、用法、意味、例文などを詳しく解説。 三三〇〇円

**正信念仏物語** 親鸞聖人御願意訳本 松下雅文監修 浄土真宗の門徒なら誰もが知っている正信念仏物語の全内容を、現代語でわかりやすく、現代語で物語風に意訳した大冊。 三三〇〇円

# 通信員リレーレポート Vol.236

日本全国のご門徒の方々や各地で開かれている同朋の会を紹介します。

## 相続の場

金沢教区第4上組 願念寺門徒

高川 精啓さん(72歳)



高川精啓さん(ご自宅のお内仏にて)

母親を亡くされたことをきっかけに、お内仏のお給仕を一手に引き受けられた高川精啓さん。それまでは、まったく仏事に触れてこなかったという。日々の戸惑いや不安の連続に少しは学ばなければ、という思いが起こり、お手次寺での法要や行事に積極的に参加されるようになった。お寺に足を運ぶにつれ、持ち前の熱心に火がついたという。

「もともと基本から勉強したい」と、京都へ行くたびに、声明や荘厳に関する本を買って独学でも勉強されるようになる。現在では朝は「正信偈」、夕には「浄土三部経」を自宅のお内仏でお勤めされている。

学びを重ねていくにつれ、次第に他派の寺院にも参拝したいという思いが強くなり、今年1月には真宗十派のうち、西本願寺と高田派専修寺の報恩講に参拝。真宗教団連合が行う『真宗十派本山報恩講法要巡り』を完遂された。この他にも金沢教務所で紹介された『お東さんの参拝手帳』をもとに、各地にある大

## 現在を生きる

谷派の別院巡り(スタンプラリー)にも取り組んでおられ、日本国内にあるすべての別院・教務所を巡ることが現在の目標だそう。すでに近畿・中部地区は達成されたそうで、「さすがに海外の別院までは無理だろう」と笑いながら話される。「いろんな所に行ったが、本山の報恩講の坂東曲に感動した。声明本を持って、もう一度参拝したい」と熱い思いも添えられる。

そんな高川さんが今一番感じていることは、お坊さんと門徒の「コミュニケーション」の大切さだ。「最初はお通夜の場で『正信偈』の後の和讃を三首引きでお勤めする時、どこを読めばいいのかわからず戸惑った。自分から積極的に学ばなければ、知ることでもできなかったかもしれない。お坊さんには、一つひとつ丁寧に門徒に伝えていってほしい。宗門護持や法義相続という思いも、お互いに理解しあえる関係から育まれるものではないか」と語る。

お手次のお寺も含めて毎月3カ寺に足を運び、聞法の場に身を置く高川さん。真宗の教えに出あった一人の門徒として、教えの相続を真剣に考える思いがその姿から感じられた。



所有する声明本や参拝手帳(青色)

金沢教区通信員 藤光弘



### 「教えを聞く者として」

「仏説観無量寿経」は「如是我聞(このように私は聞きまして)」と始まります。ここで、「仏が言われた」ではなく、「私が聞いた」と始まることに、大きな意味があります。それは、仏の説かれるさとりの世界に、今、私が触れることができたという信仰の感動なのです。つまり、「如是我聞」は私が勝手に聞いたのではなく、仏の意のままに私は聞かせていただいたという信仰の告白です。そこに「仏説(仏が説いた)」という意味があります。仏説であるということは、教えを聞いた人びとの信仰の上

宗門が問われている「仏説観無量寿経(観経)」における「是旃陀羅」の語について、様々な視点からこの問題を考えていかなければなりません。このコーナーでは、これまでの歴史を振り返りながら、宗門に属するすべての人々が課題を共有できるような情報を発信していきます。

かとなつてはけません。しかし、親鸞聖人は、当時忌避されるような仕事につき、「悪人」というレッテルをはられた人びとと出あい、念仏の教えを聞く中で、さまざまな立場を超えて、共に生きていく地平をいたされた方です。今、問われている差別問題に、私たちが向き合おうとする時、社会の中で親鸞聖人の立たれた場所を確かめながら、和讃として表された『観経』の「意」を尋ねていかなければなりません。

私たちは、部落差別をはじめ、さまざまな差別問題が現存する社会を生きています。その社会の中で、私たちの教団は、『観経』の中にある「旃陀羅」を、差別を正当化するものとして用いてきた歴史があります。これまで「是旃陀羅」の問題性が見えていなかった罪責を抱えるからこそ、現代に生きてはたらく『観経』の意を、私たちはあらためて聞いていかなければならないのです。

この記事に関するお問い合わせ

解放運動推進本部 075-371-9247 kaho@higashihonganjii.or.jp

東本願寺御用達

# 日下念珠店

〒600-8174  
京都市下京区烏丸通花屋町下ル  
電話 (075)351-6325  
フリ-FAX 0120-89-5255  
定休日：日曜日

## 皆様の平安

平安は三つの信念で精進しています

- ①優良な商品を吟味し御調整
- ②価格も出来る限り勉強
- ③親切と誠意あるサービス

法衣、打敷、幕、会旗、念珠、稚児貸衣裳  
御本山用達

### 平安法衣店

京都市下京区東本願寺大門前(〒600-8153)  
電話 京都(075)351-3681(代)  
FAX (075)351-5563

永田文昌堂

川添泰信著 定価2200円(税込)  
響生のこころ

尾野義宗著 定価2750円(税込)  
「僧侶向け解説」  
歎異抄受託の覚如  
聖教化解放の蓮如

現在も、寛如上人と蓮如上人による本願寺教団の形成は、「歎異抄」を禁書にしたから成功したという説がある。だがそれは明らかな誤解であるということ、歴史的資料も踏まえながら詳しく解説する。

最新刊  
龍谷叢書60「親鸞の死生観とヒーロー活動の理念と実践の融合的研究 上・下」  
鍋島直樹著 上巻定価5500円(税込) 下巻定価6050円(税込)

死に直面する人間の苦悩や願い、死別の悲しみにどう向き合えばよいのかという臨床的課題に対し、仏教浄土教の死生観と死の看取り、親鸞浄土教の死生観と救いを考察しながら、仏教を背景としたヒーロー活動の基本姿勢を問い直す。

〒600-8342 京都市下京区花屋町通西洞院西入 TEL 075-371-6651 FAX 075-351-9031



# 「流」 —新しき旅立ち—

1205(元久2)年、33歳になった親鸞聖人は、法然上人より『選撰本願念仏集』の書写を許されます。この書は、浄土の教えを説く確かな教義書でありながらも、その内容が先鋭的であり過激な内容をも含むことから、誤解が生じることを心配した法然上人は、その書写をわずか10人ほどにしか許されませんでした。

「ただ念仏しなさい」という教えは、生きることに苦悩する多くの人びとの心に伝わる一方、その本当の意味を誤って理解する人も少なくなかったのです。念仏さえすれば何をしても許されると勘違いをしては平気で悪事をはたらく人もいました。また、伝統的な仏教の教えと在り方を、尊敬することなく否定する門弟も現われはじめ、既存の仏教界から続けて非難が起りました。いわゆる「承元の法難」と呼ばれる弾圧につながる動きが、すでに始まっていたのです。

1204(元久元)年、比叡山から法然上人に対する強い警告が出されます。それを受けて上人は門弟たちを戒める七つの決め事(七箇条制誡)を示しました。そこには当時の親鸞聖人の「釋綽空」という名もありました。翌年には奈良の興福寺からも、念仏の禁止と門弟たちの処罰を求める訴状が朝廷に提出され、1207(承元元)年、門弟4人が死罪、8人が僧籍を奪われ流罪となりました。法然上人は藤井元彦として土佐国、親鸞聖人は藤井善信という名で越後国に流されたのです。

## 親鸞聖人に であう

浄土真宗をあきらかにされた親鸞聖人。  
大谷中・高等学校「京都」で  
生徒とともに学ばれている乾さんと。

中高生の素直(リアル)な問いを手がかりに、  
「人と生まれたことの意味」を  
親鸞聖人のご生涯に学んでいきます。



乾 文雄  
京都教区近江第5組  
正念寺住職  
大谷中学・高等学校講師

「流」という漢字のイメージを言う「上から下へザー」「水に流す」「周りの意見に流される」

「なるほどなあ。いろいろあるなあ。この字の左のサンズイ偏は水よな。そして右の上にあるのは子という字が逆さまになつてゐるねんて。つまり赤ちゃんが生まれ出てくる状態。そして下の3本は、赤ちゃんがすつと生まれてくるための水(羊水)を表すのと同じ時に、流れが分かれてゐることも表してゐるらしいわ。新しい世に流れ出てくるという意味もあるのかな。そして別の方向に進むという意味も」

漢字の由来にはさまざまな説があります。生徒はこういう字源の話に、思いのほか興味を持ってくれるので、あくまでも一つの説だよと言いながら紹介することが多くあります。そして「つ」の字は、けつ(けつ)若し人たちの記憶に残るものです。

「この字の意味を考えた時に、親鸞さんが流罪、つまり都を追われ地方に流されるということはどう受けとめておられたのかなと考えるのよ。ここからはかなり自分勝手な解釈も含まれるけど聞いてな」

「親鸞さんは納得して喜んで流されたとは思えないよね。特に師である法然さんごが罪を問われ流されることには許しがたいほどに腹が立つたと想像するのよ」

「でも、当事者の法然さんはな、平たくいって『まあ、こんなことでもないと田舎の人びとに私が出遇い得た正しい教えを伝えることもできないわな』と言われたそうなんよ。みんなこれを聞いてどう思う?」

「自分が心から信じ尊敬する人にこう言われたら、ただただ腹を立てて

いるだけではあかんと感じはつたのではないかな。だからな、最後はこの流されるということの前向きにとらえはつたんちがうかな」

「もちろん、間違つた評価や不正に対して、文句を言わずに引き受けなさいなんて言つてゐるとちやうで。でもな、生きていたら、思つてもみなかったことは起(こ)るし、理不尽な扱いを受けることはある。それを正(ただ)し、ほんとうのことを明らかにすることは大事やと思う。間違つてゐることを正しいと思ひ込む必要もない」

「でも法然さんは、全く違う受けとめをされたんやと思うのよ。いろんな事情があつたのかも知れない。お仲間のことを考えてのことかも知れない。それでも、この流されるということ、自分にはいつた何ができるかということをお考えになつたように思うのよ」

「だからきつと親鸞さんも同じように、覆(かぶ)りよつた流罪という決定を受けて、この私には何ができるのかと考えはつたのではないかと思うのよ」

「チャンスってなに?」

「そつやねん、みんな覚えといて。ピンチこそがチャンスやで〜」

釈尊(しやくそん)は弟子が教えを伝えるに行く時、「二人して行くな、一人ずつ行け」と言われたと伝えられます。真実の教えを広く伝えるために、35歳になつた親鸞さんは、法然さんとも多くの仲間とも別れ、いつしよに暮らしていた家族と共に、新しい世界へ踏み出されます。そして、そのことが機縁となり、ただだかれた教えを内に深く確かめていけるのでした。

# 東本願寺前市民緑地整備事業完成記念式典・

## オープニングイベント

—愛称は「お東さん広場」に—

京都市初の市民緑地としてオープンする東本願寺前市民緑地の整備事業完成記念式典・オープニングイベントが法要前日の3月24日に行われました。式典は、高倉幼稚園の子どもたちの元気いっぱいの歌声で始まり、案内板の除幕とともに広場の愛称が「お東さん広場」と披露されました。

オープニングイベントでは「音楽で世代をつなぐ・地域をつなぐ」をテーマに、第1部では下京渉成小学校、京都産業大学附属中学校・高等学校、大谷中学・高等学校へと音楽のバトンが繋がりました。第2部では「下京まちなかアート」をテーマに、縄跳び競技「ダブルダッチ」のパフォーマンスや、カルテットカメラータ(京都市立芸術大学OB)による管弦楽の演奏、京都市立芸術大学生によるサクソアンサンブルが披露されました。夕方からは飲食ブースもオープンし、地元の方や観光客など多くの方が来場されるなど、これからの門前の賑わいを感じさせました。

サクラやイチヨウなど、季節を彩る草木も楽しめる芝生広場のほか、石畳風の多目的広場はさまざまなイベントの空間として利用できる「お東さん広場」。京都市からも「賑わいと憩いの空間、歴史と文化の発信の空間、多くの方々のおもてなしの空間」として大いに期待されています。本山へのご参拝の際にはぜひお立ち寄りください。

高倉幼稚園園児による合唱により式典がスタート



下京渉成小学校吹奏楽部による演奏



大谷中学高等学校吹奏楽部による演奏



カルテットカメラータによる弦楽四重奏



京都市立芸術大学生によるサクソアンサンブル



お東さん広場(南側)



御影堂門とお東さん広場(北側)

京都産業大学附属中学校・高等学校吹奏楽部によるマーチング



NEWTRADによる縄跳び競技「ダブルダッチ」のパフォーマンス



### 参拝者の声

- 涙が出るほど、身体が弾むほど、この法要に参拝できることがうれいし。ずっとこの日を楽しみに待っていました。(京都市)
- 慶讃寄席とてもよかったです。親鸞さんのことを身近に感じました。(愛知県)
- パルンゼンぶたのしかった!またあそぶ!(3歳)
- (テーマソングを歌う前に)あんなあ、わたし、幼稚園でも練習したし、おうちでも歌ってた。だから、ののさまの前でもがんばって歌うね!(5歳)
- 両堂で同時に法要が動まる歴史的瞬間に立ち会えてうれいです。(大阪府)
- 団体参拝で、九州からフェリーで一晩乗って来ました。御影堂など建物の大きさに圧倒されました。仏花もとても立派で素敵でした。次の世代に「正信偈」を歌い継いでいく大切さをあらためて感じました。(大分県)
- 7年前に帰敬式を受けた時のことを思い出しながらお参りしました。一生に一度の経験させていただきました。遠方からですが、来ることができて本当によかったです。(長崎県)

# 宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要

## —お念仏の声の中で親鸞聖人の御誕生と立教開宗の意義を確かめる—

3月25日、宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要の初日を迎えました。このたびの法要では、阿弥陀堂と御影堂の両堂が一体となって、同時に法要が動まるという初めての形式をとりました。大谷輪楯門首が阿弥陀堂で表白(初・中結は御影堂)。続いて、阿弥陀堂での調声により「正信偈」が、御影堂での調声により「正信偈」が同朋唱和によりて動まりました。法要前の慶讃テーマソングの披露、内局挨拶、勤行後の関係学校の生徒や門徒による感話(平日法要のみ)と慶讃法要教導による法話が両堂それぞれでありました。両堂に参拝された全国の皆さんのお念仏の響きの中で、宗祖の御誕生をよろこび、親鸞聖人のお教を確かめました。なお、4月8日まで15日間動まった第1期法要には約5万人が参拝しました(各種催事の詳細は次号でお知らせします)。

### 宗務総長挨拶(要旨)

煩悩にまなこさえられ、大悲の光明みざれども、つねにわが身をてらすなり(高僧和讃「真宗聖典497〜498頁」)

慶讃事業にご理解を賜った多くの皆さまのお力添え、そして尊いご懇念のもと、ここに「参拝の皆さま、そしてライブ配信をご覧になっている世界中の御同朋の皆さま」ともに慶讃法要をお迎えすることができました。

昨年11月に完成した阿弥陀堂門修復の際、4本の柱の天井裏に箱が括り付けられており、その中に「仏説阿弥陀経が二冊ずつ和紙に丁寧に包まれて納められていたことがわかりました。このお経は阿弥陀の浄土に生まれよとすすめてくださる諸仏の声が詰まったもので、我々が阿弥陀堂門をくぐる時、まっすぐ阿弥陀堂に向かないと、阿弥陀如来に遇いにくい」という諸仏の声を聞くのです。阿弥陀堂は浄土の荘厳として御本尊、阿弥陀如来が立つておられます。そこで我々は阿弥陀如来から「我が名を称えよ」と仏さまのお名前をいただくのです。しかし、損が得か、勝つか負けるか、役に立つ

かどうかという性を生きている私たちがなかなかお念仏申すことができないのです。親鸞聖人は、そのような我が身を濁世の機であるとして、あ、あ、愚かな者だと自らをいながら「愚禿の鷲」と名のられました。冒頭のご和讃にあるように、本来にこの愚かな私、なればこそ阿弥陀如来は我々を見捨てず、念仏申せと絶えず呼びかけてくださっている。この教えをともに聞いていこうではないかと我々に語りかけてくださっている親鸞聖人に出会うことができます。

このたびの慶讃法要は、阿弥陀堂と御影堂で同時に勤行をします。真宗本願いっばいにひろがるお念仏の声の中で、隣人が称えるお念仏の声に励まされ、私が、はからずもお念仏でさ得る身となった、その感動と、親鸞聖人の御誕生と立教開宗の意義を、ともども味わいたいと思えます。そして、この慶讃法要を大切に、ご縁として、皆さまの教区、組、寺院、地域、家庭などの身近な場において、有縁の方々とともに慶讃法要の意義をあらためていただき直す場が開かれることを心より願っています。



### 渉成園ライトアップオープニングイベント

3月25日、渉成園で始まったライトアップのオープニングイベントとして、書家の金澤翔子さんによる「席上揮毫」が行われました。力強く「慶縁」の文字を揮毫された金澤翔子さん。会場全体で今日の出会えたご縁を慶ぶ、あたたかな雰囲気会場全体を包み込みました。引き続き、アートディレクターの浅葉克己さんによる、デザインをテーマにしたトークショーも行われました。金澤翔子さんの書は、慶讃法要期間中、渉成園大玄関入口に展示され、多くの方が観覧しました。



### 親鸞聖人生誕八百五十年特別展「親鸞—生涯と名宝—」

3月25日から京都国立博物館で「親鸞—生涯と名宝—」が開催されています。親鸞聖人のご生涯を自筆の著作や手紙などを通して振り返ることができます。そして、親鸞聖人の主著『教行信証』は、東本願寺、西本願寺、高田本が初めて集結。最晩年まで加筆、訂正を加えられている跡から、ご自身の人生を問いたずねていかれた聖人のお心にふれる展示となっています。展示は5月21日まで。



### 井波彫刻師による東本願寺の彫刻ガイドツアー

3月26日を初日に、慶讃法要中の5日間、「伝統技術のワークショップ」の一環として、富山県南砺市の井波彫刻師による東本願寺の彫刻ガイドツアーが行われました。東本願寺と井波彫刻のつながりは深く、江戸時代に井波別院が焼失した際、東本願寺の御用彫刻師を派遣。明治期の東本願寺再建では井波の彫刻師が京都に駆け付け、現在もその彫刻が残っています。参加者は明治の先人たちの思いを受けつぐ井波彫刻師の案内を興味深く聞き入っていました。



### 全戦没者追弔法会

4月2日、「人間はなぜ争うのか」をテーマに、全戦没者追弔法会が動まりました。俳優の竹下景子さんによる「追弔の儀 戦争にいのち奪われたあなた方よ」(作詞:高史明)の朗読の後、四衛亮さん(岐阜高山教区)による記念講演がありました。一人ひとりが歴史に学び、自らと自らが生きる社会を省みて、戦争でいのちを奪われた方々を憶念し、真の平和とは何かを問いたずねる法要となりました。



# 慶讃 NEWS

山陽教区

## 宗祖親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要お待ち受け大会 — お念仏の場、願いを確かめる歩み —



帰敬式の様子

3月10日、春の暖かさが感じられる日差しのもと、姫路船場別院本徳寺にて、山陽教区お待ち受け大会並びに姫路船場別院本徳寺「本徳寺創立五百年・船場本徳寺成立四百年・本堂建立三百年記念法要」が行われました。

午前より開会し、はじめになご 椰野大輔山陽教務所長から、

多くの方々がお念仏申されてきた別院の歴史と今日の大会並びに法要の意義について挨拶がありました。

続いて、大谷暢裕門首の剃刀による帰敬式が執り行われ、78人が受式しました。誓いの辞では、受式者の代表がこれから仏弟子として歩いていくことを力強く誓いました。その後、日野雅範氏(第4組善覚寺住職)による帰敬式法話がありました。「真宗宗歌」二番の歌詞「六字のみ名をとえつつ 世のなりわいにいそしまん」を紹介し、「お念仏を称え、お念仏に尋ねながら自身の生活を尽くしていきましょう」と、お念仏の教えを人生の指針としていくことを呼びかけました。

午後からの記念法要には、320人が参拝しました。法要に先立ち、

藤本浩之教区慶讃事業委員会委員長と長峯あきのり 顕教参務の挨拶の後、門首をはじめ57人が出仕。静かな本堂に、雅楽の音と勤行の声響きわたり、引き続き、「正信偈」が同朋唱和によって勤まりました。

勤行後の門首挨拶では、災害、感染症、戦争などのさまざまな現代社会の問題や不安に対して、「私たちには帰るべきところがあります。それは「愚」の大地であり、「凡夫」としてのわたくし一人という宗祖のお示しであります」と話され、親鸞聖人が顕かにされた教えに生きましようと呼びかけました。

山陽教区では、昨年より慶讃法要お待ち受け記念として、「親鸞聖人讃仰講演会」「同朋のつどい」の二つの講演会を開催し、慶讃テーマ「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」の意義を確かめてきました。このたびのお待ち受け大会並びに法要は、一人ひとりがこれまでの歩みを確かめる場となり、来る慶讃法要へとつながっていく第一歩となりました。

(山陽教区通信員 青山 祐一)



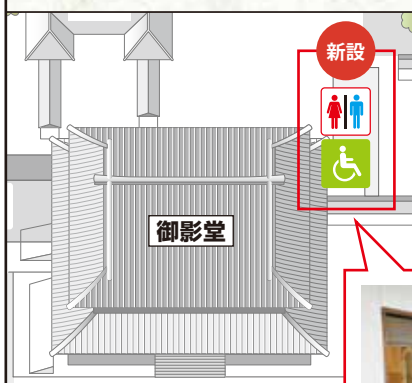
堂内が一体となって動まった「正信偈」

### 新たに御影堂北側通路にトイレが完成しました!

このたび、御影堂北側通路(高廊下付近)に新たにトイレが設置されました。

慶讃法要で多くの参拝者が来られることを見込み、昨年9月からの工事が3月中旬に完成し、3月19日の春季永代経総経から多くの参拝者にご利用いただけます。

木目調を基調とした明るく落ち着いた室内で、十分な個室を備えているほか、お子さま連れの方や車いすの方にも、安心して快適にご利用いただけるよう多機能トイレも設置しています。



入り口扉

また、1月に完了した境内白洲北側のトイレに続いて、境内南側トイレの改修工事も同時期に終了しました。ご参拝の際は、ぜひご利用ください。



木目調の落ち着いた雰囲気通路

広々と明るい雰囲気室内

### 青蓮院に伝わる聖人得度の剃刀を「一時お移し」 — 慶讃法要期間中 境内で展示 —

3月14日、青蓮院(京都市東山区)において、青蓮院に永く伝わる親鸞聖人が得度の際に使用された剃刀を、一時的に宗派が「お預かり」する「御剃刀一時お移し式」が執り行われました。



式典での剃刀受け渡しの様子



剃刀

親鸞聖人は9歳の春に、伯父の日野のりつな 範綱に連れられて慈円のもとで「鬘髪を剃除」したと『御伝鈔』で伝えられています。また、史料によると、本願寺歴代のうち、第四代善如上人から第十代證如上人までは青蓮院で得度したという記録があり、所縁は深く、親鸞聖人御旧跡の地として、現在も多くの真宗門徒が青蓮院を参拝しています。

青蓮院ではこれまで剃刀を公開することはありませんでしたが、宗派と青蓮院との日頃からの交流の中で、このたびの慶讃法要での展示が実現しました。

親鸞聖人お得度の間とされる宸殿にて行われた式典では、御本尊の前で青蓮院東伏見慈晃門主から木越涉宗務総長に剃刀が手渡され、その後、「正信偈」による勤行がありました。

式典後は、聖人の母が、剃髪した聖人の髪を植えて傍に置いていたと伝えられている童形像にまつわる建物である植髪堂に場所を移して記者会見が行われ、多くの報道関係者に剃刀が披露されました。

木越総長は、会見で「本当にありがたいことです。全国からお越しになる多くのお参りの方にご覧いただき、生涯をとおしてお念仏申した宗祖のお姿を思い浮かべていただく機会ができた」と、今回の申し出を快く受け入れた東伏見門主に感謝の意を伝えました。東伏見門主は、「東本願寺でお勤まりになる慶讃法要で多くの方に喜んでご覧いただけることは何よりです」と述べられました。

剃刀は、「慶讃テーマ館」の「宗祖親鸞聖人展」で4月29日まで展示されました。



慶讃テーマ館での展示

わすれな 勿忘の鐘 2023

3.11 東日本大震災

—忘れない。あの日から、そしてこれからも—



勿忘の鐘を撞く本願寺住職

3月11日、本願寺(岩手県陸前高田市)において、「勿忘の鐘」と追弔法要が開催され、約50人が参拝した。

本願寺では、震災翌年の2012年から、津波に流された後、瓦礫の中から掘り出した鐘

を「勿忘の鐘」と名づけ、被災する以前にお寺があった地で鐘を撞き始めた。その後、場所を移し、仮設の本堂を経て、本堂・鐘楼堂が再建される中、ご門徒、近隣住民とともに復興の歩みが重ねられてきた。

法要に際し、佐々木隆道住職は「今年は十三回忌という年を迎えた。震災から12年経つが、まだありありとあの時の光景が浮かぶ。やはり、忘れたくないという思いが一番ある。あの時、多くのいのちが奪われたこと、そして、いただいたご恩や支援は忘れてはならない。この体験を、これから先、もしかしたら起こる災害のために活かしていきたい。その役目が私たちにはあるのではないかと呼びかけた。

法要の後、午後2時46分、陸前高田市の沿岸部が一望できる境内の鐘楼堂に参拝者が集まり、市の防災広報による黙とうの呼びかけとサイレンが響く中、一人ひとりが鐘を撞き合掌した。

東北教区東日本大震災復興本部では、旧仙台教区からの取り組みを引き継ぎ、3月11日に執り行う「勿忘の鐘」を教区内外に周知し、全国の別院・寺院での開催情報を東北教区ホームページ「勿忘の鐘特設サイト」において紹介した。当日の様子はライブ配信され、現在も視聴することができる。



第57回「京の冬の旅」で大寝殿・白書院を一般公開

京都市と京都市観光協会が主催し、毎年冬に開催されるキャンペーン「第57回京の冬の旅」に本年も東本願寺が協力し、1月7日から3月19日までの期間中に約18,000人が拝観に訪れた。「親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年」が今年の冬の旅のテーマの一つであったことから、参拝の方へは慶讃法要のパンプレットを配布するなど広報も行った。



大寝殿



白書院

今回は、通常一般には非公開の諸殿の中から、大寝殿と白書院の2カ所を特別公開。大寝殿の竹内栖鳳作の障壁画、白書院では欄間や障壁画などを、また、予約制で職員が案内する「僧侶の案内による特別拝観」のコースも新たに実施し、1,241人をご案内した。参加者からは「御影堂のスケールの大きさに驚いたが、諸殿も同じで、中でも白書院の豪華さや重厚さを味わうことができた」「建物のいたるところにまで絵師や建具の職人の技の細かさを感じられた」「僧侶の詳しい説明を聞き、東本願寺を身近に感じられた。市民緑地が完成したらまた訪れたい」との声が聞かれた。

出版物価格改定のお知らせ

昨今の紙代や燃料費の高騰により、本年7月1日より下記のとおり『真宗大谷派勤行集』(赤本)の一部価格改定を行うこととなりました。また、和綴の小判(A6判)につきましては、現在庫がなくなり次第販売を終了いたします(小判は洋装のみとなります)。

東本願寺出版をご利用の皆様におかれましては、ご負担をおかけいたしますが、何卒ご理解のほどお願いいたします。

Table with 3 columns: 書籍名, 改定前(税込), 改定後(税込). Rows include '真宗大谷派勤行集' (洋装・大判) and (洋装・小判).

東本願寺出版

寄付のご報告

東本願寺出版では、昨年11月にインターネット「読みま専科TOMOぶっく」にてチャリティブックフェアを開催しました。

新型コロナウイルス感染症の影響により、今もなお生活に困難を抱える方への支援のため、「赤い羽根ポスト・コロナ(新型感染症)社会に向けた福祉活動応援キャンペーン」へ155,654円を寄付いたしました。ご協力ありがとうございました。

読者のお便り



バラババンどっこよ

長野県飯山市

丸山茂彦(78歳)

昨年、親鸞聖人の御真影の前において、妻と共に帰敬式を受け、法名をいただいてまいりました。参拝接待所での受付から受式まで、丁寧な応対をしていただき、心が温まりました。そしてその後、東本願寺の飛地境内地である「渉成園」を訪れました。入って正面の、形も大きさもさまざまな石で造られた高石垣を見て、コロナの影響で地域コミュニティの希薄化が一層進んでいる現在だけに、ありとあらゆるものは皆関係しあっていること、みんな違ってみんないい「バラバラでいっしょ」の大切さと素晴らしいさを感じました。庭園内の大きな池は鏡のように、歴史ある建造物や木々が水面に映る見事な様に、心が洗われました。



渉成園の高石垣

宛先

〒60008505 京都市下京区烏丸通七条上る 東本願寺出版「同朋新聞編集係」

住所氏名年齢電話番号を明記してお送りください。紙幅の都合上、掲載時は添削・抜粋させていただきます。

お便り募集

「同朋新聞」の感想をはじめ、日々の思いなどをお寄せください。

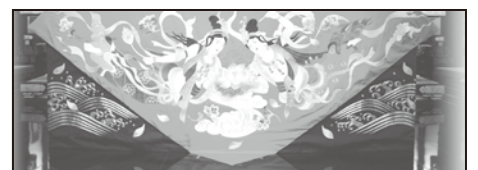
新刊 仏教のミカタ2 - 仏教から現代を考える31のテーマ



武田定光 他30名(著) 新書判 935円(税込)

「戦争」から「子育て」まで、社会問題や人生の悩み、日々の暮らしの中にある様々なテーマについて仏教のミカタ(見方)から考えるシリーズの第2弾。

全国各地の僧侶を中心に31名が執筆しており、各テーマに関するブツダや親鸞聖人の言葉も掲載しています。



宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌記念 紅地天人之図総手刺繍御打敷謹納

〒600-8159 京都市下京区烏丸通東本願寺前 TEL フリーダイヤル 0120-07-6391 FAX フリーダイヤル 0120-34-2816 https://shibata-houten.com/

(Webカタログ掲載・商品動画配信) 真宗大谷派 東本願寺御用達 京法衣事業協同組合加盟店



Social media campaign for SNS with QR codes and details for a book giveaway event from May 1st to June 30th.

TEL:075-371-9189 詳しい書籍情報は 東本願寺出版 検索

本紙3月号からはじまった「宗教とは 信仰とは—カルト問題を通して考えよう—」では、これまでカルトの特徴や傾向に加え、浄土真宗の歴史の中でカルト問題をどのように考えてきたのかを尋ねてきました。

最終回にあたり、この問題に向きあう方々にオンライン上で集まっていただき、座談会を開催しました。今号では、そこ

で語られた宗教心や宗教教育、カルト問題の実情、カルト教団入信者の家族の苦悩など、さまざま視点や課題を掲載します。

お念仏の教えを聞く私たちは、カルト問題を通して、何を確かめなければならないのでしょうか。いま、あらためて私たちにとって「宗教とは 信仰とは」を考え、語り合ってみませんか。

第1・2回の  
記事はこちらから

〈第1回〉 〈第2回〉



木越 渉 宗務総長

## 握りしめた ものを手放す



真宗大谷派宗務総長  
金沢教区第11組光専寺住職

昨年7月の元首相銃撃事件を受け、現在、宗教と政治、宗教2世の観点からカルト問題が論じられています。この問題に関し、「カルトと私たちは違う」という趣旨の意見を発信した教団もあります。しかし、その一点張りでは、多くの人びとには根拠のない言い訳にしか聞こえないのではないのでしょうか。オウム真理教の事件によつて起きた「宗教は怖いもの」という感覚が、今なお広がっているように思います。今私たちに必要なのは、宗教、そして宗教心の問題を、自らの課題とすることではないのでしょうか。

かつて安田理深先生は、「宗教を厳密に学ぶと、知識人を論破する力は養われないが、本当か嘘かを直感できるようなになる」とおっしゃいました。また、先生は、「わかった話で自分が救われることはない」ともいわれます。人間は、わかってしまうと、それを握りしめ、立ち止まってしまうのです。私たちは、握りしめたその拳で、他に害を及ぼす危険性をもっている存在ではないのでしょうか。

著名な科学者は、「クリティカル・シンキング(批判的思考)」という言葉で、自分が「こうだ」と思ったことを、一度まっさらにする思考を提唱しました。それは、真実に向かっていく際、自分が掴んだものが邪魔だということでしょう。このことは、如来の本願により、自らの愚かさとは向きあう真宗門徒にとって、日常的な考え方だといえるのではないのでしょうか。そしてこれは、本来、宗教がもたらさざらざらだと思つて、自らの考えに縛られているところから解放するのが、宗教ということなのです。

だからこそ私は、現在の問題の中心にあるのは、宗教というより、宗教心だと考えています。平野修先生は、「宗教心を徹底的に考え抜いたのが親鸞」とおっしゃいましたし、また、「生活の指針としての宗教」ともいわれました。もし、自分が握りしめたもののために、隣にいる大切な人が涙を流しているなら、生活の指針とはいえませんが、「こうだ」とつかんでしまいかねない、自らの宗教心の危うさに対し、止むことなく警鐘を鳴らすものこそ、宗教だと感じています。

一楽 真氏

## 自らの拠り所を 確かめる学びを



大谷大学学長  
小松教区第2組宗園寺住職

木越総長は「生活の指針としての宗教」とおっしゃいました。それは、宗教が「宗となる教え」ということでしょうか。無宗教と言う人も、「宗」がないわけではありません。誰もが何かを信じ、それを握って生きています。現在では「役に立つか立たないか」という価値観が強く握られているように感じています。

「それが本当に大事なのか」と問うてくださったのが、親鸞聖人です。大谷大学は、特定の教義を覚える所ではなく、何を拠り所にして生きるのかを確かめる大学です。大谷大学が宗教学校であるというのは、この意味においては、日頃握っているものが本当に大切なかと確かめていくことは、生きていく上でなくてはならないことです。これが宗教教育の大事な意味といえるでしょう。

そこには難しさもあります。日本では1945年の敗戦を契機に、公教育で宗教を論じてはいけなくなり、もちろん特定の宗教を国家が国民に強制することはあってはなりません。しかし、自らの拠り所を確かめる宗教を論じにくい現状には問題があります。「何のために生まれてきたのか。死ぬのに生きる意味があるのか」。誰の上にも起こるこうした問いを確かめることがないと、結局、世の中の価値観に振り回されるだけに終わるのではないのでしょうか。

『仏説無量寿経』には、人間が煩惱に振り回されるあり方が説かれています。「吉凶禍福、

競いておのおのこれを作す。一も怪しむものなきなり」(『真宗聖典』六十一頁)という言葉に注目するならば、私たちのあり方は、都合の良いものを求め、悪いものを避け、そのことをおかしいとさえ思わないものです。それを痛ましいとご覧になったのがお釈迦様です。そんなあり方で一生を終わって良いのかと、問うてくださっているのです。しかし、だれもが釈尊の教えを聞き、受けとめたわけではありません。受けつけない私がいるということが問題なのです。これが宗教を学ぶ難しさだと思います。

なぜ受けつけないかという点、すでに握っているものがあるからです。親鸞聖人は、比叡山の学びを経て、法然上人に出遇いました。それまで仏教だと思つて握っていた答えが、そうではなかったという開けをもった体験だったと思います。答えを握るのではなく、問い続ける生き方が始まったということなのです。

私たちは、答えに立てば、必ず人を裁く危うさをもっています。もし親鸞聖人を、人を裁くために使うとすれば、それも間違いなくカルトになっていくでしょう。だから、カルトの問題は、特定の教団の話ではありません。親鸞聖人にとっては法然上人との値遇が、答えを破つてくれる出遇いでした。私たちはその意味で、親鸞聖人と出遇っているのでしょうか。自身の危うさを見つめるところから、さまざま対話が始まっていくというのが、私の考えている宗教ということなのです。




# 宗教とは 信仰とは

## 第3回 いま、課題を確かめる

### —カルト問題を通して考えよう—

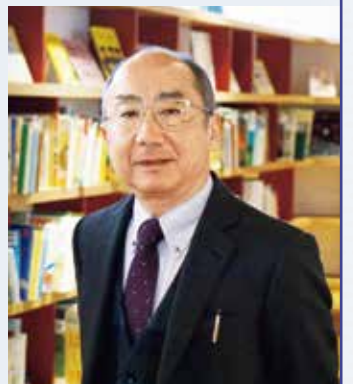
カルト問題リーフレットを配布しています  
必要部数を無償でお送りしています。ご希望の方は青少年センターまでご連絡ください。

TEL:075-354-3440  
青少年センターHPでカルト問題について紹介しています



よつじ あきら  
**四衛亮氏**

## カルト問題の今



青少年センター研究員  
岐阜高山教区高山1組不遠寺住職

3月号には、カルト性の強い教団の特徴が示されました。ただ注意しなければならぬのは、そのような特徴に惹かれて入信するのではなく、特に若い方たちの場合、ボランティアやサークル活動に意欲をもって関わったら、カルト性の強い団体の関連グループだったということが多いのです。また、最近の勧誘のほとんどは、インターネットや、家族、友達を通じてのものです。中・高校生も日常的にインターネットを使う時代です。で、勧誘の対象が低年齢化しています。

走っていくのが破壊的カルトです。私たちは、こうした点をしっかりと確認し、カルト問題を宗教が内包する課題として明らかにすることが大事です。それを親鸞聖人は、魔・鬼神の問題として明らかにしてくださっています。

カルト性の強い教団の勧誘や献金の問題、さらに2世問題への厳しい追及がマスクミヤインターネットで盛んに行われ、それが、信者個人への強いバッシングになっていきます。職場にいらなくなったり、心身に変調をきたす問題が起っています。個人の信教を許容しつつ、自己批判も含め、相互の信仰批判を対話として開けるかが、宗教者の課題です。

カルト問題を考える上では、不安といふことも重要な視点です。カルト性の強い集団に入り、教祖や教団に依存してしまうのは、不安や問題がなくなつて安心できたという経験があるからです。しかし、それで終わるわけではありませ

問題、さらに2世問題への厳しい追及がマスクミヤインターネットで盛んに行われ、それが、信者個人への強いバッシングになっていきます。職場にいらなくなったり、心身に変調をきたす問題が起っています。個人の信教を許容しつつ、自己批判も含め、相互の信仰批判を対話として開けるかが、宗教者の課題です。

ん。カルト性の強い集団は、新たな不安をあり、依存させる巧みな手法をもっています。将来が見えない現代を生きてZ世代と呼ばれる25歳以下の人たちは、現在の医療・栄養状態で、普通に100歳まで生きるといわれます。それを喜んでいくかという、不安でいっぱいなのです。この身を100歳まで養っていくかなければならないのですから。そういう不安が高まっている時、「安心がここにありませんよ」などといわれると、惹かれていってしまうことがあると思います。それは「何かに依存したい」と考

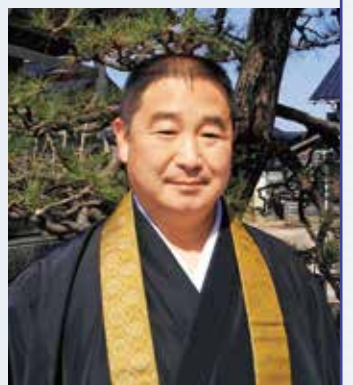
て、私たちや世の中のある方を問うものです。しかし、世を超えた教えから、世と自分自身が問われているのに、それを失って、教えや神様と一体化し、問われなく側立って、自分たちこそ「正義」だとして、その正義の刃を世に向けたり考

える私たちの危うさといえるかもしれません。そういう私たちのあり方を絶えず問い明らかにするのが、親鸞聖人の教えだと思えます。

ひらの よしゆき  
**平野喜之氏**

## 家族の苦しみを

### 見つめて



金沢教区第11組浄専寺住職

私がカルト問題を考える出発点は、高校の後輩である井上嘉浩さんが、オウム真理教に入信して事件を起こしたことです。さらに逃げれば、彼のご両親から相談を受けたことが根底にあります。カルト問題に関する私の活動の中心は、カルト教団に入信した方の家族の相談を受けることです。

必要はありません。専門の人たちにつなぐ役割をしていただきたいのです。カルト問題のカウンセリングをするためには、教団の教義や、話してはいけないことなど、熟知しなければならぬことが多くあります。ただ傾聴するだけでは難しいのです。ですから窓口になつて専門の人たちにつなぐだけでいいのです。もしそれをお寺が担えれば、苦しんでいる家族の声が聞き取れるのではないかと考えています。

現在、特に問題だと感じているのは、カルト問題を相談できる場所がほとんどないということです。相談者の方は、よくおっしゃいます。「家族がカルト教団に入信した時、警察に行っても、弁護士に相談しても、児童相談所に行っても、あるいは学校に相談しても、誰にも私たちが苦しいというのを理解してもらえない」と。さらに、「親子問題だから自分たちで解決してくれ」ということをいわれるのです」ともおっしゃいます。

確かに、カルトに入信する原因として、家庭の問題があることは少なくありません。しかし、本人が立ち直り、帰ってくるには、家族の愛情が非常に大きな縁となることが多いです。井上嘉浩さんの場合はそうでした。「世の中がすべて見捨てても、自分たちは待つていよ」という思いを伝え続け、彼のマイナードコントロールが少し和らいだということもあるのです。

相談者が親である場合、わが子が人格を変えられて苦しんでいる自分の気持ちをわかってもらえないという声を多く聞きます。子どもがカルトに入信しただけでも苦しいのに、親の教育の問題として扱われることで苦しみが増していきます。しかし、カルト教団の場合、勧誘が非常に巧みで、入つてみて初めてカルト教団だとわかったということがあるので、必ずしも教育の問題とはいえないのです。

しかし、本当の意味で脱会するのは容易ではありません。私のよく知る人は、10年以上かかわつても脱会できませんでした。その意味からも、予防は大切です。入信して間もないころには兆候があります。私は、その兆候をつかんで、教団によって心を操られる前に、阻止するのが一番の方法だと思っています。そのために、カルトについて学ぶ場を定期的に設け、啓発を行っていくことが求められているのではないのでしょうか。

私は、コンビニエンスストアの数よりも多いといわれるお寺が、相談の窓口になればいいと思っています。ただ、お寺の人が解決する

入館状況については、研修部まで  
お電話でお問い合わせください。

# 2023年 真宗本廟奉仕のご案内

真宗本廟奉仕を機に、  
ぜひ「**帰敬式**」を受式ください。

## ◆真宗本廟おみがき奉仕団

2泊  
7月4日(火)～6日(木)

1泊  
7月4日(火)～5日(水)

孟蘭盆会を迎えるにあたって、阿弥陀堂や御影堂の仏具のおみがきを日程の中心とした奉仕団です。

**参加費** ※下記は大人(15歳以上)の場合です。  
(2泊3日) 18,000円、米2kg(1升4合)または米代1,300円  
(1泊2日) 13,000円、米1.2kg(8合)または米代800円  
**申込締切** 5月25日(木)

## ◆真宗本廟中学生・高校生奉仕団

2泊のみ 8月7日(月)～9日(水)

全国から集まった同世代の人と寝食を共にしながら、人間関係や自分自身についてあらためて考える奉仕団です。



**対象** 中学1年生から高校3年生まで  
**参加費** 中学生9,000円／高校生13,500円、米2kg(1升4合)または米代1,300円  
**申込締切** 6月28日(水)

## ◆真宗本廟 報恩講奉仕団

2泊 11月20日(月)～22日(水) 11月20日(月)～21日(火)  
11月24日(金)～26日(日) 11月24日(金)～25日(土)  
1泊 11月27日(月)～29日(水) 11月27日(月)～28日(火)

真宗本廟報恩講の法要参拝を日程の中心とした奉仕団です。申込は5月上旬から開始いたします。

**参加費** (2泊3日) 18,000円、米2kg(1升4合)または米代1,300円 (1泊2日) 13,000円、米1.2kg(8合)または米代800円 ※上記は大人(15歳以上)の場合です。  
**申込受付期間** 5月9日(火)～5月16日(火) ※電話受付は各日9時から17時まで。定員を超えた期間については抽選となります。

## 【お問い合わせ】同朋会館・研修部 TEL:075-371-9185

・受け入れ状況などの情報は、同朋会館ホームページでご覧いただけます。  
・ご入館される皆様に安心してお過ごしいただけるよう、新型コロナウイルス感染症予防対策を実施し運営しています。  
・具体的な対策については、同朋会館ホームページよりご確認ください。



コロナ下だけど、カフェという居場所があるおかげで以前のように他教区の方と交流ができたし、座談の延長や気楽な話ができ、話しやすくなりました。(50代 女性)

## ご案内

詳しくは、真宗大谷派(東本願寺)ホームページ「法要・法話のご案内」まで  
もしくは、右のQRコードを読みこんでください。



東本願寺いのちとこころの相談室 【TEL】075-371-9280  
【開室時間】毎週木曜日 13時～17時(祝日または休館日、その他行事日は閉室)

## しんらん交流館 京都市下京区諏訪町通六条下る上柳町199番地

真宗本廟(東本願寺)へご参拝の際には、ぜひ真宗教化センター しんらん交流館にお立ち寄りください。  
開館時間/平日 9時～18時 土日祝 9時～17時 休館日/毎週火曜日、5月1日～7日

- ◇5月の定例法話【場所】1階 すみれの間  
【時間】毎日14時～(5月12日・27日は10時～)  
※毎週火曜日、5月1日～7日は休会、その他都合により休会する場合があります。
- ◇5月の東本願寺日曜講演  
【場所】2階 大谷ホール 【時間】9時30分～11時  
【講師】◇5月7日…休会 ◇14日…尾畑文正(同朋大学名誉教授)  
◇21日…西田真因(元教学研究所長) ◇28日…休会
- ◇交流ギャラリー(1階)  
6月中旬まで休止
- ◇しんらん交流館 Tera School【場所】1階 すみれの間  
【日時】毎週月・金曜日(5月1日・5日はお休み)  
18時30分～20時30分  
【対象】小学3年生～高校3年生 ※幼児教室もあります。 <http://www.teraschool.jp>

全国のお寺での取り組みや読みもののページなど、さまざまな情報を発信しています。

浄土真宗ドットインフォ

## 真宗本廟(東本願寺境内) 京都市下京区烏丸通七条上る

- ◇晨朝(おあさじ)【場所】阿弥陀堂及び御影堂 【時間】毎日7時～
- ◇晨朝法話 【場所】御影堂 【時間】毎日7時30分頃～
- ◇真宗本廟法話【場所】御影堂・大寝殿  
【時間】通常10時10分～/13時10分～  
速夜日(12・27日)13時10分～ 御命日(28日)9時30分～  
※その他、時間・会場を変更する場合があります。
- ◇参拝接待所ギャラリー【時間】9時～16時  
「親鸞聖人のご生涯」(常設展)開催中  
「非戦と平等の源流をたずねて」 5月16日～7月26日

詳しくは、真宗大谷派ホームページまで



◇50年に一度の慶讃法要。本号の6・7面では、第1期の法要や境内各所の催事の様子、「お東さん広場」として生まれ変わった市民緑地のオープニングイベントの様子などを写真とともにお届けします。◇このたびの慶讃法要は、私にとっても何から何まで初めての大法要でした。全国各地からお集まりいただいたご門徒の皆さんの両堂に響くお念仏の声や「正信偈」の声に感動すると同時に、次の世代へ確か

にこの教えを伝えてほしいという願いが込められたバトンを渡されたことと身の引き締まる思いでいっぱいです。また、子どもから大人まで、お一人おひとりが手を合わせる姿、そしてマスク越しでも感じられる笑顔にたくさん出会い、法要を通してこころが温まるのを感じました。慶讃法要をお迎えるための数年間の準備から法要期間を過ごせたことは一生の思い出であり、私の出発点となりました。(林)

## 今月号の『同朋新聞』を読んで、

## プレゼント付 クロスワードパズルを完成させよう!

「タテのカギ」「ヨコのカギ」それぞれの設問に答え、  
クロスワードパズルを完成させましょう!  
5月号の『同朋新聞』を読むと、ほとんどの答えがわかります!!

※答えはすべて「ひらがな」でお答えください。

### タテのカギ

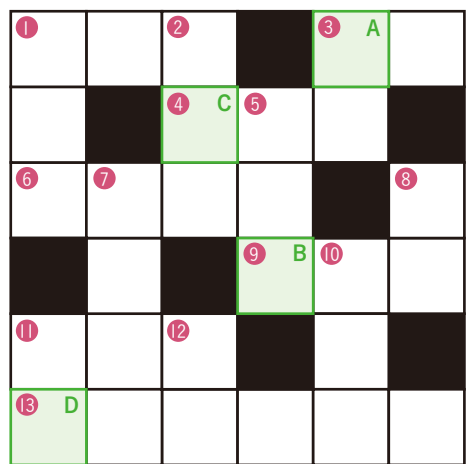
- 1207年、「親ら〇〇〇う人」と法然上人は、僧籍を奪われ流罪となりました。(5面)
- 4月2日、「人間はなぜ争〇〇〇」をテーマに、全戦没者追弔法会が勤まりました。(7面)
- 東本願寺出版では、昨年11月にチャリティブックフェアを開催し、「赤い〇〇ポスト・コロナ(新型コロナウイルス)社会に向けた福祉活動応援キャンペーン」へ寄付しました。(9面)
- 『人間といういのちの相』今月のタイトルは、「出会い〇〇〇まる物語」です。(2・3面)
- 井波彫刻師による東本願寺の「ちよ〇〇〇〇ドツアー」が行われました。(7面)
- 今月の特集は、「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要ーおね〇〇つの中での親鸞聖人の御誕生と立教開宗の意義を確かめるー」です。(6面)
- 1205年、親鸞聖人は、法然上人より「選じゃ〇〇〇願念仏集」の書写を許されました。(5面)
- 『現在を生きる』今月は、金沢教区通信員「藤み〇〇ろ」さんが執筆しています。(4面)
- 3月14日、青蓮院において「御剃刀一時お移〇〇き」が執り行われました。(8面)

### ヨコのカギ

- 「さ〇〇〇〇教区」でお待ち受け大会が開催されました。(8面)
- 慶讃法要は、阿弥陀堂と御影堂で同時に法要が勤まるという、「〇〇めて」の形式をとって勤まりました。(6面)
- 3月11日、本願寺において「勿忘〇〇〇」と追弔法要が開催されました。(9面)
- 「御同朋・御同ぎ〇〇〇〇の問いかけ」今月のテーマは、「教えを聞く者として」です。(4面)
- 3月25日から「京都国立〇〇〇つ館」で、『親鸞一生と名宝』が開催されています。(7面)
- 「〇〇〇〇〇〇ん寺出版公式Instagram・Twitter」にてSNSキャンペーンを開催します。(9面)

答え 

A	B	C	D
---	---	---	---



3月号のクロスワードパズルの答えは、  
A な  
B の  
C は  
D な

### 読者のこえ

- ◆【特集】親鸞聖人の略年表を切り取って壁に貼りました。(80代男性)
- ◆【今月の法話】誰もがさまざまな弱を抱えて生きている。「親鸞もおなじ」との言葉にこころを打たれました。(60代女性)

## チャレンジ! 正解者の中から抽選で5名様に「東本願寺出版オリジナル図書カード1000円分」をプレゼントします!

郵便はがきまたはメールにて、①「クロスワードパズルの答え」②「郵便番号」・「住所」・「氏名」・「年齢」・「電話番号」と③『同朋新聞』の感想や紙面に関する要望を添えて、下記までご応募ください。今月号の締め切りは5月31日(水)(当日消印有効)です。

### メールでも応募できます!!

はがきと同様に必ず上記①②③を記入し、「件名」に「同朋新聞5月号クロスワード応募」と入力のうえ [higashihonganjishuppan@gmail.com](mailto:higashihonganjishuppan@gmail.com)へお送りください。



応募はコチラ

【ご注意】◆当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。◆個人情報プレゼントの発送および紙面づくりの参考に使用し、それ以外の目的には使用しません。◆感想は「読者のお便り」に掲載する場合があります。◆本クロスワードパズルは、独自のルールに基づいて作成しております。

宛先 〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る 東本願寺出版「クロスワードパズル係」まで